

AI導入から企業の生成構造の可視化へ

人とAIの共同観察から、企業の変化の起点を設計する

人とAIが見つめる、
企業のこれから。

知がつながり、
企業の未来が
動きはじめる。



ともに見つめ、ともに創る、企業の新たな可能性





企業を深く理解し
ともに未来をつくる

支援対象企業の内部構成

02

支援対象企業の現状分析

支援対象企業の現在の状態は、内部の複数の生成層と、外部の時代背景・顧客需要との相互作用によって生まれている。

時代背景

支援対象企業を取り巻く外部環境の変化



社会変化

人口動態・価値観の
多様化が進む



市場変化

競争環境の変化と
業界構造の転換



技術変化

デジタル化の進展と
新技術の登場



AI普及

生成AIの普及による
社会・産業の変化

これらの変化が、
支援対象企業に影響を与えている。

環境からの
影響

支援対象企業

(組織の内部構成)

顧客からの
影響

① 表面層

売上 顧客対応 問い合わせ クレーム AIが扱わない

② 業務実行層

業務フロー 承認 情報共有 日々のオペレーション

③ 人材・能力層

教育 業務知識 判断力 創造性 営業力 AI活用力

④ 関係・文化層

コミュニケーション 連携 心理的安全性 分断の有無

⑤ 組織設計層

役割分担 権限 責任 評価制度 意思決定



⑥ 理念・経営意図層

理念 ビジョン 何を目指すか 何を大切にするか

顧客の需要

顧客・市場からの期待と要請



顧客の要望
品質・成果・コスト
に対する要望



需要の変化
サービス・商品の
ニーズの多様化



顧客体験
使いやすさ・満足度
の向上



期待
より良い体験と
継続的な価値の提供

顧客の需要・期待が、
支援対象企業に影響を与えている。

一般的な課題は
表面層に現れる。
変化の起点は、
より深い層にある。

変化する時代の中で、
支援対象企業は
どのように進化していくのか。

支援対象企業を理解するには、表面の課題だけでなく、複数の生成層を同時に見る必要がある。



企業を深く理解し
ともに未来をつくる

一般的なAI導入支援の視点

今、見えている
課題から
はじめる。

多くのAI導入支援は、支援対象企業に現れた課題や業務上の詰まりから介入し、改善と定着を図る。

小さな改善から、
大きな未来へ。

現場で見える課題

日々の業務の中で、すでに表面化している課題



問い合わせ対応の遅れ

顧客や社内からの問い合わせに
すぐ対応できない



人手不足

業務量に対して人員が足りない



属人化

特定の人に業務や知識が
依存している



書類作成負荷

報告書・議事録・提案資料など
の作成に時間がかかる



AIが使われない

導入したが、現場で活用されて
いない

一般的なAI導入支援

現場の課題を起点に、ツール導入から定着までを支援

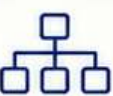
1



課題整理

現場で見えている課題を整理し、
優先度を定める

2



業務棚卸し

対象業務の流れ・作業内容・現状の
工数を把握する

3



ツール選定

課題に適したAIツールを選定し、
利用方法を設計する

4



研修・プロンプト整備

利用方法の研修を行い、
業務に即したプロンプトやテンプレートを
整備する

5



導入・定着支援

運用ルール策定やフォローにより、
継続的な利用と定着を支援する

目指す改善

AI導入により、以下のような効果が期待される



効率化

業務の進め方がスムーズになる



工数削減

作業時間を短縮できる



応答速度向上

顧客・社内対応がスピーディになる



利用率向上

現場でのAI活用が広がる



一部業務の自動化

定型業務をAIで自動化できる



このような一般的な支援は、現場で見える業務上の課題に対して
即効性のある改善策として有効である一方で、
多くの場合、企業の表層的な課題からスタートする。

一般的な支援は、表面に現れた課題への改善策として有効である。

そのため、短期的な業務改善には強いが、より深い企業変革までは見えにくい場合がある。

企業の現状を深く理解し、生成AIを活用して、持続的な価値創出につなげる。

知がつながり、
企業の未来が
動きはじめる。

1

現状理解

企業の全体像を把握し、
目的と方向性を共有する。



2

業務可視化

業務の流れや
現状のやり方を整理し、
可視化する。



3

課題抽出

業務上の課題を
多角的に分析し、
優先課題を明確にする。



4

AIユースケース設計

課題に合わせた
生成AIの活用方法と
解決策を設計する。



5

導入・研修

ツールの導入や
業務への組み込みを行い、
現場のメンバーを支援する。



6

定着・効果測定

運用を定着させ、
効果を測定しながら
継続的に改善する。



支援時に見る視点

→ 多角的な視点から企業の状況を捉え、最適な支援につなげます。



業務

業務プロセス・
作業内容・効率性



人材

スキル・意識・
組織体制



情報

データ・資料・
ナレッジの活用状況



顧客対応

顧客体験・
コミュニケーション



運用ルール

社内規程・
ガバナンス・リスク

企業それぞれの状況に応じて、
必要な視点を組み合わせて
分析します。

人とAIが出会うことで、企業の新たな可能性がひらく

AI導入支援は、現状整理から実装・定着までを段階的に進める。

人とAIが
見つめる、
企業のこれから。

生成AIがひらく企業の新たな可能性

生成AIの導入は、課題の解決にとどまらず、人・組織・社会に新たな価値を生み出す力となる。

一般的な企業の課題

多くの企業が、さまざまな課題を抱えています。



人手不足

業務量に対して人手が足りない



属人化

特定の人に業務が依存している



長時間労働

業務が多く、残業が常態化している



従業員のストレス

業務負荷が高く、心身の負担が大きい



メンタルヘルス負荷

不安や疲労によるメンタル不調の増加



離職リスク

人材の定着が難しく、採用も困難



コミュニケーション不足

部署間の連携が弱く、情報共有が進まない



顧客対応負荷

問い合わせ対応に時間と労力がかかる

生成AIの活用で
課題を乗り越え、さらなる可能性へ



人の可能性と、企業の力を、ともに広げていく。

ひらかれる変化

生成AIの活用により、企業の可能性が大きく広がります。



業務効率化

定型業務の自動化により、生産性が向上



情報整理

膨大な情報を整理し、必要な知見をすぐに活用



学習支援

社内の学びを支援し、スキル向上を促進



判断支援

データに基づく分析で、より良い意思決定を支援



顧客理解

顧客の声を分析し、ニーズに応じた対応が可能に



新サービス創出

アイデアの創出を支援し、新たな価値を生み出す



負荷軽減

従業員の業務負荷を減らし、ストレスを軽減



働き方の柔軟化

場所や時間にとらわれない柔軟な働き方を実現

生成AIは、業務効率化だけでなく、人材・組織・価値創出の可能性を広げる。

人とAIがともに歩むことで、企業はもっと強く、しなやかに、未来へ進んでいける。



構造を捉え、変化の起点を設計する視点

表面に現れた問題を直すだけでなく、その問題が生まれる生成原因と構造を観察し、変化の起点を設計する。

構造の奥を見て、
変化の起点をひらく

知がつながり、
企業の未来が
動きはじめる。

同じ企業の課題でも、
どこから支援を始めるかで、見える景色と変わる未来が変わります。

一般的な支援

見えている問題の解決から始める

多くの支援は、表面に現れている問題や業務上の詰まりから対応を始め、個別の改善を積み重ねる。



主な介入位置:
表面課題・業務実行層



特徴

- 短期的な改善に強い
- 導入と運用の整備に有効
- 背景構造までは届きにくい場合がある

見えている問題の解決から
始めるアプローチ

生成過程から見る支援

問題が生まれる構造から変化を設計する

私は、問題の背後にある生成過程を見て、原因と変化の起点を捉え、構造からの変化を設計する。



主な介入位置:
関係・組織・理念を含む複数層



特徴

- 問題が生まれ続ける場所を捉える
- 企業ごとに細かな解決策を設計できる
- 人とAIの役割を組み直せる
- 現場が自ら更新できる状態へつなげる

生成過程から捉え
変化の起点を設計する
アプローチ

結果ではなく、
結果が生まれる生成過程を見る
変化の起点を見つける

表面の改善ではなく、問題が生成される構造に介入することで、より精度の高い支援が可能になる。



人とAIの協働から、
変化の力をひらく

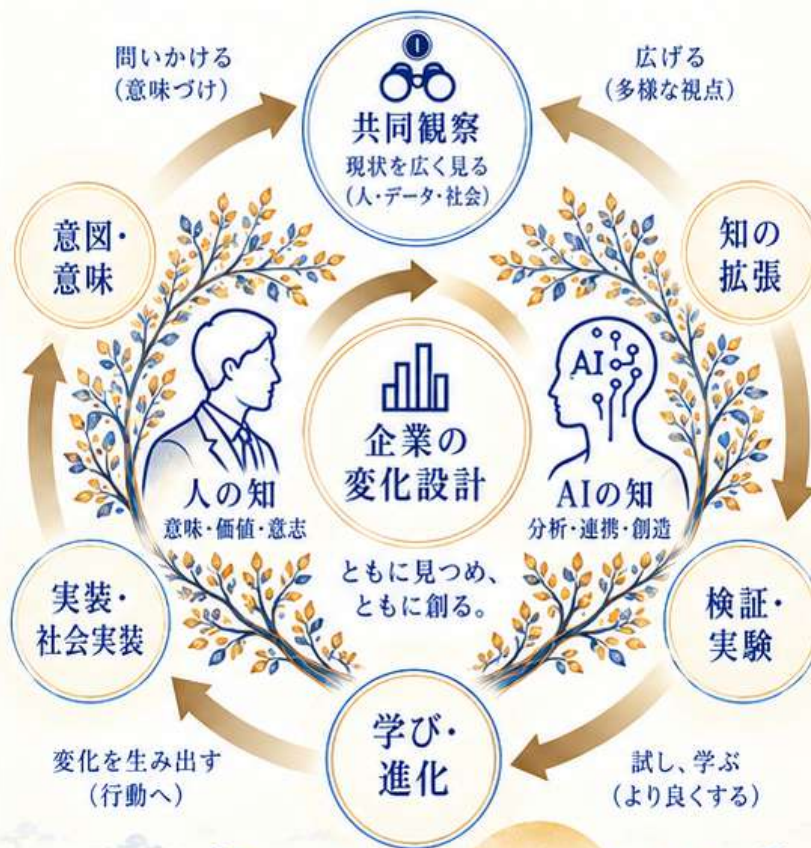
人間とAIの協働循環

人間は方向・価値・意味を定め、AIは横断・比較・構造化・再構成を担う。
両者の協働が、企業の変化を持続可能なものにする。

人間が担う役割

人だからこそできる、意味をつくる役割

-  **目的を定める** | 何のために行うのか
(ビジョン・意義)
-  **価値を選ぶ** | 何を大切にするか
(価値判断・優先順位)
-  **方向性を示す** | どこへ向かうか
(戦略・道筋)
-  **最終判断を担う** | 責任を持って決める
(意思決定・倫理)
-  **文脈を読む** | 背景や人の想いを理解する
(文化・感情・関係性)
-  **人間の強み**
 - ・目的・意味づけ
 - ・価値判断・共感
 - ・創造的な意志



AIが担う役割

データと知見をつなぎ、可能性をひろげる役割

-  **横断する** | 分野や情報をまたぐ
(多様な知の統合)
-  **比較する** | 類似と差異を捉える
(パターンの発見)
-  **構造化する** | 複雑な情報を整理する
(全体像の可視化)
-  **再構成する** | 新しい組み合わせを生む
(アイデアの創出)
-  **仮説を出す** | 選択肢や方向を提示する
(次の一手の提案)
-  **下案をつくる** | 素案・たたき台を生成する
(検討の加速)
-  **AIの強み**
 - ・大量処理・比較
 - ・パターン認識
 - ・創造的な生成

協働が生み出す企業の変化

 **新たな気づき**
これまで見えなかった機会を発見する

 **迅速な実験**
小さく試し、素早く学ぶ

 **より良い意思決定**
多様な視点で判断の質を高める

 **持続的な進化**
学び続け、変化し続ける組織へ

知がつながり、
企業の未来が
動きはじめる。

人間が方向を示し、AIが構造を広げることで、変化の循環が生まれる。

AI時代、企業はどこで分岐するのか

変化を見つめ、
未来への選択を描く

文明の転換期に必要な、変化を生成する力

生成AIの急速な普及は、単なるITツールの更新ではなく、知識・労働・意思決定・創造のあり方そのものが組み替わる社会的転換期を生み出している。

競争力を失う企業

変化への対応が遅れ、従来の延長線上で考える企業



AIを便利なツール
としてしか見ない

本質的な変化を
見誤る



既存業務を
そのままAI化する

業務の前提を
見直さない



一部の担当者
しか使わない

組織全体に
広がらない



人材育成が
追いつかない

学び・実践が
継続しない



経営と現場が
分断している

方向性が一致せず
推進力が生まれない



過去の成功モデル
に固執する

環境変化に
適応できない

たどる未来の姿

判断が
遅れる

顧客価値が
下がる

競争力が
低下する



これらの企業は、AIを持っていないからではなく、
変化に対応できる構造に更新できないことが、
競争力の低下を招く。

かつての優位性が
通用しない時代へ

すべての企業に訪れる 分岐点

AIを導入したかではなく、
変化を観察し、再設計し、
更新し続けられるか

停滞への道

変わらない
ことによる
緩やかな後退

成長への道

変化を力に
変える
持続的な進化

文明の過渡期
AI普及の加速

分岐を生むのは、AI導入の有無ではない。
AIによって加速する環境変化の中で、
企業自身が学習し、再設計し、
変化を生成し続けられるかどうかである。

変化の中で成長する企業

変化を読み、学び、自らを再構成する企業



AIの本質を
理解する

可能性と限界を見極め
戦略に活かす



自社の生成構造を
可視化する

業務・知識・意思決定の
流れを捉える



人とAIの役割を
再設計する

人の強みとAIの強みを
最適に組み合わせる



現場が学習・検証・
更新を繰り返す

小さく試し、早く学び
継続的に進化する



顧客需要の変化を
読む

外部環境を継続的に
観察し、機会を見出す



新たな価値を
創出する

顧客・社会に対して
新しい価値を生み出す

たどる未来の姿

変化に
適応する

新しい価値を
生む

競争力を
高める



これらの企業は、変化を前提に学習し続けることで、
AIを使いこなすだけでなく、継続的に新しい価値を生み出し、
持続的に成長していく。

変化とともに、
新しい価値が生まれる未来へ

AI時代に問われるのは、「AIを使える企業か」ではない。
変化を観察し、自らを再構成し、新しい価値を生成し続けられる企業かどうかである。